

子どもの笑顔が輝き

勢いのある学校

No. 8 (H30. 6. 1発行) 文責 校長 福田雅也

清流

こんなことも考えています

この仕事をしていますと、時々、各種の発刊物に原稿を書いてもらえないかと依頼を受けることがあります。今回は、県下の教育関係者向けの発刊紙に原稿執筆を頼まれました。テーマは、「これからの部活動」というものでした。もちろん、今年度末に迫る県下全体(熊本市を除く)の小学校運動部活動社会体育移行(甲佐町は移行済み)を受けてのテーマでした。そして、下枠内の原稿にも書きましたが、私が上益城郡小学校体育連盟の会長であることからの依頼だったようです。

今回は、その原稿を紹介したいと思います。

対象読者が、教育関係者であり、校長としてだけでなく、小学校体育連盟の会長として書いた文章ですので、この学校だよりにはそぐわない面がありますが、標題にしましたように、「こんなことも考えています」という部分をお伝えできればと思い、掲載することにしました。

小学校運動部活動の社会体育移行を受けて

甲佐町立甲佐小学校長 福田雅也

小学校教諭時代の私の教師生活では、運動部活動が重要な位置を占めていた。その運動部活動が、熊本市を除く県下すべての小学校において、本年度末をもって全面的に社会体育へ移行される予定である。すでに決まっていることとはいえ、運動部活動に大きな意義を感じ、情熱を注いできたものにとっては少し寂しい気もする。

昨年度から私は、上益城郡小学校体育連盟の会長を仰せつかっている。現在、各地区の小学校体育連盟では、県小学校体育連盟が定めている「熊本県小学校スポーツ教室開催基準」に則って、各地区の小学校運動部活動チームが参加する各種目の試合等を開催している。来年度からは、それらの開催がほぼできなくなるのである。

このままでは、子どもたちの運動離れを加速してしまう結果になるのではないかと大変危惧している。そんな中、郡の小学校体育連盟会長としてやらなくてはいけないことがあるように思う。それは、今後も大会や記録会が開催可能な種目である「水泳」と「陸上」について、目的や開催方法等をしっかりと検討しながら、確実に継続していくことである。社会体育化にスムーズに対応する事ができ、運動部活動に代わる運動機会を手にすることができた子どもはよいのだが、そうでない状況があり、運動したくてもその機会がなくなった児童がいることを忘れてはいけないと思う。そんな子どもたちを視野に入れ、大会前の一定期間、放課後の時間等を使って練習に取り組み、記録や技能の向上を目指しながら体力の向上にもつなげ、運動を楽しむことができる。そんな機会を保障する責務があると感じているのである。

今回の社会体育移行を「働き方改革」の視点で見るのではなく、子ども側の視点から見ることを忘れてはいけないと思う。

